



復興まちづくり通信

一般社団法人 復興みなさん会

復興みなさん会は平成23年10月から、南三陸町内で東日本大震災の復興支援を継続しています。町内外の皆さまに当会の活動の内容をご理解いただくとともに、復興の最新情報をお伝えすることで、共に地域の再建への道を歩んでいただけるよう『南三陸復興まちづくり通信』を毎月発行しています。読者の皆様からの情報、ご意見、ご提案を頂戴できれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

東北支援学生団体ジョイスタディがボランティア ～上山八幡神社で椿の下草刈り作業～

都内およそ10大学の学生で組織する東北支援学生団体ジョイスタディのメンバー16人が9月12日午前、志津川上山八幡神社で椿の下草刈りのボランティア作業に従事しました。復興みなさん会が震災後に行なっている避難所までの道しるべにツバキを植える「椿の避難路」の取り組みを知り、協力を申し出たものです。同団体では、復興支援イベントの益金を椿の苗木購入などの資金として寄贈しました。



（作業終了後に、笑顔で記念撮影をする学生たち）



（建築中の板倉の家＝戸倉・松崎団地、10月撮影）

戸倉地区に町産材100%の板倉住宅

南三陸町産材を活用した住宅建築を推進している「南三陸木の家づくり互助会」による家づくりの輪が広がっています。4月に完成した7棟目の板倉住宅の完成見学会には町内外から40人を超える人が来場。板倉の家での自宅再建希望が3件ありました。

9月中旬には、戸倉地区の志津川湾を望む高台に造成された松崎団地内で、100%町産材を利用した8棟目の板倉の家が上棟式を行っており、11月中の完成を目指して工事が進んでいます。

「歌津地区復興支援の会一燈」がネットワーク会議

歌津地区で活動を行っている「復興支援の会一燈」（小野寺寛会長、会員約50人）が9月27日、第2回ネットワーク会議（＝写真）を開催しました。歌津復興交流センター（旧伊里前保育所）で行われた会議には、行政区長、契約会長、自治会長、小・中学校の校長など20人が出席。仮設住宅の撤去の予定、高台団地の住宅建築状況、伊里前低地部の整備計画などについて情報を共有したほか、各集落の地域課題の報告が行われました。



椿のタネひろいツアーで復興状況を見学 ～中央復興住宅入居者が町内巡り～

志津川地区の中央復興公営住宅の入居者が10月4日、町内巡りのバスツアーを楽しみました。復興みなさん会が主催したもので、入居者11人が参加。志津川上山八幡神社と戸倉神社の境内で椿のタネひろいをした後、復興みなさん会のメンバーのガイドで、志津川と戸倉地区の復興工事の進捗状況を見て回りました。

昼食時には、入谷のひころの里に移動して、「ばっかり茶家」で会食。漆塗りの器で供された郷土色豊かな昼食を堪能しました。



(椿のタネ拾いをした志津川上山八幡神社で記念撮影)



(芋煮を食べながら和やかに交流＝みねはた団地集会所)

高台移転みねはた団地で“芋煮会”

歌津地区の防災集団移転「みねはた団地」で10月22日、自治会主催の「芋煮会」が開かれ23人が参加。新しい仲間同士で親睦を深めました。団地の集会所で住民自らが調理を担当し、肉や里いも、ゴボウなどの野菜がふんだんに入れられた具たくさん芋煮とおにぎり、各家庭の自慢の漬物などを味わいました。食後には、「カラオケ交流会」も行われ、次々とマイクを握り自慢ののどを披露。ビールやつまみを手に、歌や会話で盛り上がりました。この催しには、県の地域コミュニティ再生支援事業補助金が活用されました。

トヨタ財団の助成団体が活動を中間報告

トヨタ財団による「東日本大震災特定課題」助成プログラムの助成対象団体の中間報告会が9月22日、岩手県陸前高田市で開催されました。会には宮城、岩手両県の助成団体のメンバーなど約30人が出席。仙台、名取、大崎、石巻、南三陸、陸前高田の7団体が、「復興公営住宅などにおける良好なコミュニティづくり」をテーマにそれぞれの活動について報告しました。他地域の事例紹介では、横手市の共助組織「狙半内共助運営隊」の奥山良治会長が、豪雪地域での雪下ろしお助け隊の取り組みなどについて発表しました。



(活発に意見を出し合ったワークショップの様子)

一般社団法人 復興みなさん会

〒986-0751 宮城県本吉郡南三陸町志津川字上の山26
上山八幡宮 社務所内 minasan.msrk@gmail.com

当会は今年度、トヨタ財団と大阪コミュニティ財団から助成をいただいで活動しています。